

即はづれかつを豊漁

水揚げ一万五千貫はらく

大きな期待をかけてゐた秋化のない限りは群棲を變更會主催で來る七日午後一時刀魚もその後快報に接するこれが出来ず幾分漬をさびれさしてゐる折柄、最近に至つて節はづれのかつをがれを漁に接するものと想はないであらうし食膳のより第二小學校講堂に於て刺身も供給出来るものと想られる

小名漁港に毎日平均七、八百貫、四日は一万五千貫の水揚げ、賑じている、このがつを漁について土地の古水揚げを聞くと小名漁港の老の話を聞くと、その話はかづれかつをの生むに適した域はかづれかつをの生むに適した水温から深くゆう泳して居り撒き餌水面に誇り出し釣りあげるもの、五トンから八トン位までの小型船「

二時間も走れば操業出来る極めて簡単な漁獲から三千貫は水揚出來るので續々今漁されるが、この節はづれのかつを漁は何時まで漁師の機を潤しこれをくら八トントン位まで、秋魚の味を消したが店頭に現れない待望の秋魚の味をどうやら忘られやうとしている。小名漁港試験場ではその後躍起となつてサンマ群の分布、海流等に就て指導船を動員調査に當つて、自下北海道襟茂崎沖合五〇一〇〇哩にあり近く航されるので詳しいことは判明することとなり、今年は不漁年ではないかと水産官員に聞けば、北洋水産試験場はその後躍起となつて漁獲は漁船を動員調査に當つて、自下北海道襟茂崎沖合五〇一〇〇哩にあり近く航されるので詳しいことは保證しえるものがある

解禁になつて十日、どこえたものどうぞお見合せ下さい」と語つてゐる。

營林署で水害復舊を急ぐ
同人雑誌「北炎」評

読んだ、同人は大部分文科

平営林者では本年度林道貯木量災害復舊ひ豫算を立てて、これによると被災額は三ヶ所で三百合である

三万円で木炭、薪の需要期創作二編、菅田甫の「微塵り秘密の暗さもあり、それ

をひかえて地元民と業者かの雨」がやハ手慣れた手法で何か女の手招きするよ

うな、早期復舊を陳情されていてともかくも小説らしい形な春の雨」といつたよ

うなものが、その間に現れるにはあらう。

はあらう。

はあらう。